

理科教育文献抄録誌の作成 Ⅲ

加 藤 貞 夫

要 旨

創刊号の編集、印刷上からの問題点を反省し、件名標目表の件名調整の試案(1967)を作成した。62件名を51件名に減らし、抄録分類の簡易化をはかった。次に第2号の編集方針を明かにし、執筆協力者名簿、同協力者への協力依頼方法に及ぶ。

1. 研究のねらいと経過の概要

理科教育研究の無計画な繰り返しを避け、より能率的、有効な研究の積み重ねをはかるために、広く国内外の理科教育に関する文献を整理して、その利用に供するのが本研究のねらいである。

昭和34年10月9日日本理科教育学会(以下学会という)全国大会(於山形大学)で、NDCを基礎に於いた理科教育資料分類表⁽¹⁾(NDC-TN)⁽²⁾を最初に研究発表した。以来学会の東海支部および学会自体の委嘱研究に指定され、第10回学会⁽³⁾⁽⁴⁾の全国大会(於大阪市)からは、毎回全国大会の協議題として討議された。この間文部省科学研究費(昭和37年度)、学会支部および本部からの研究費を受け、本研究の分類表を基として「理科教育文献目録」を試案した。かつ二、三の雑誌に紹介⁽⁵⁾された。

さらに、昭和40年9月30日中部図書館学会研究発表会(於名古屋市立東図書館で、NDC-TN分類方式から、件名方式⁽⁶⁾⁽⁷⁾に改め、同年10月22日第15回学会全国大会(於東京学芸大学付属世田谷中学校)においても、現在の件名方式が認められた。また同大会において「抄録作成基準」を発表し、抄録作成の協力者を募った。また、続いて、昭和40年11月26日熊本市における昭和40年度全国図書館大会で事例発表⁽⁸⁾⁽⁹⁾した。昭和41年10月19日高知大学における第16回の学会全国大会で、本文献抄録誌を発刊し、全会員に配布する旨の決議がされた。

昭和42年3月20日本文献抄録誌No. 1⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾を印刷して公刊する運びになった。昭和42年10月13日第17回学会全国大会(於千葉大学)において、本抄録誌を継続して刊行するよう要請を受け、目下その準備中である。

本稿では、創刊号の編集刊行上の問題点と反省を述

べ、第2号の発刊計画の概要に及びたい。

2. 創刊号編集刊行上の問題点とその反省

2-1 抄録作成について

2-1-1 題名から文献内容がつかみにくいことがある。例えば、「理科教育についての二、三の試み」などの場合、抄録字数が限られているので、抄録内容を深く掘り下げられず、表面的な抄録内容となってしまう。それで文献の題名はできるだけ具体的に、内容が示されてある方がよい。

2-1-2 特集記事など、どこからどこまでを題名としたらよいのか、判断に迷うことがある。この場合、できるだけ忠実に題名を記入しているが、場合によっては簡潔にサブタイトルとして略記してもよいと思う。

2-1-3 同じ内容の記事を、違った研究誌に出す場合は、まずその断わり書きがほしい。でないと、何回も抄録を繰り返すことになる。

2-1-4 記事が編集上、一部分離れているとき、参照頁数に誤りがあることがある。

2-1-5 一つの文献に、いくつかの異なった内容が書かれてあり、抄録および件名副出に困ることがある。

2-1-6 理科教育と関連した内容の文献かどうか、採択に困ることがある。抄録採択上の統一見解をたてる必要がある。

2-1-7 抄録をする採択誌を限定したいが、現在のところでは、どの程度の規模となるかはっきりしないのでむづかしい。

2-2 編集について

2-2-1 著者にフリガナを明示していない雑誌が多い。著者の索引などつくるとき困るのである。

2-2-2 校正については、とくに題名、著者名、および対照事項に誤りがないように配慮した。このために、再度、現物で確かめればよいが、現在のところ、すべての抄録に実行できないのが惜しい。

2-2-3 件名標目表に既にアンバランスが出ている。早い機会に件名調整しておく必要がある。

2-2-4 単行本についても、実施したい。

理科教育資料件名標目表

(1967) 案<アイウエオ順>

- カイコ 1. 外国教育<主題のもとにまず分類し、ここにはその副出をとる>さらにアメリカ(A), 中国(C), ドイツ(D), イギリス(E), フランス(F), ソビエト(S), その他の国別に類別する。
例1 A C B A化学
- カカイ 2. 課外研究<自由研究, 宿題, クラブ活動
- カカク 3. 化学教材資料<化学教材になる資料
4. 科学史<科学史資料とその指導法, 伝記
5. 化学自作教具⇒自作教具一般
6. 化学実験<実験・観察とその指導法
7. 化学指導法<科学史, 化学自作教具, 化学実験, 読書指導はそれぞれの標目へ>
⇒指導法一般
8. 科学的思考<創造性, 認識
- カツコ 9. 学校<学校種に関するもの(例えば商業高校, 工業高校, 女子校など)行事, 事情, 統計も含める。大学・高専→大学
- カリキ 10. カリキュラム<学習指導の組織, 計画
- カンレ 11. 関連教科<数学・国語など他学科との関連のあるもの, 技術科→技術教育
- キシユ 12. 技術教育<科学技術教育, 技術科
- キヨウ 13. 教員養成 教育実習
14. 教科書<教科書による指導法も収める
⇒指導要領
15. 教具<物理, 化学, 生物, 地学の教具
16. 教材研究(教材の単なる解説→教材資料)
⇒教科書, 各学科指導法, 各学科教材資料
17. 興味<疑問, 関心, レディネス
- ケンシ 18. 研修<教師, 実験助手, 現職教育, 教育センター, 研究
- ケンロ 19. 原論<理科教育学, 哲学, 思想, 経営, 法制, 随筆, 学力
- シキヨ 20. 授業研究<指導案, 研究授業, 授業観察
- シコホ 21. 事故防止<事故防止のすべてを収める
- シサク 22. 自作教具一般<自作教具の総説
⇒各学科自作教具
- シチヨ 23. 視聴覚教育<教育工学, ラジオ放送, テレビ放送, 映画, スライド
- シツケ 24. 実験一般<基礎操作, 態度, 能力
- シトウ 25. 指導形態<グループ, 能力別, プログラム, 問題解決
26. 指導法一般<記録指導, 板書の仕方, ミニマムエッセンシャルズなど
27. 指導要領<学習指導要領, 教育内容
⇒教科書
- シリヨ 28. 資料一般
- シンリ 29. 心理<知覚, 記憶, 知能, 機能, 個性, 児童心理, 青年心理, 男女差
⇒科学的思考, 興味
- セイカ 30. 生活指導<道徳教育, 情操教育, 宗教教育, 性教育
- セイフ 31. 生物教材資料<生物教材になる資料
32. 生物自作教具⇒自作教具一般
33. 生物実験<実験・観察とその指導法
34. 生物指導法<科学史, 生物自作教具, 生物実験, 読書指導はそれぞれの標目へ>
⇒指導法一般
- セツヒ 35. 設備<校内の施設・設備, 各学科教室, 実験室, 同準備室, 露場, 学校園, 岩石園
校外の施設・設備→地域社会
- タイカ 36. 大学<大学の自然科学教育, 高専も含む
- チイキ 37. 地域社会<都市, 農山漁村, へき地, 家庭などの教育と施設
⇒設備
- チカク 38. 地学教材資料<地学教材になる資料
39. 地学自作教具⇒自作教具一般
40. 地学実験<実験・観察とその指導法
41. 地学指導法<科学史, 地学自作教具, 地学実験, 読書指導はそれぞれの標目へ>
⇒指導法一般
- テイカ 42. 低学年指導法<幼児教育, 小学校低学年での指導法
- トクシ 43. 特殊教育<盲教育, ろう教育, 英才教育
44. 読書指導<科学読み物, 図書館
- ニツホ 45. 日本教育史<回顧録も含む
- ニユウ 46. 入学試験<高校入試, 大学入試など
- ヒヨウ 47. 評価<学習評価, 測定法, 考査法, 検査など
- フツリ 48. 物理教材資料<物理教材の資料
49. 物理自作教具⇒自作教具一般
50. 物理実験<実験・観察とその指導法
51. 物理指導法<科学史, 物理自作教具, 物理実験, 読書指導はそれぞれの標目へ>
⇒指導法一般
- (註) 1. 「理科」および「理科教育」の名辞をはぶいた。
2. 「一般」とあるのは, 共通事項か, 細分できないもの。
3. 「各学科」とは物理, 化学, 生物, 地学をさす。
4. A←B BはAの標目であらわす。
A⇒B AはBを参照するとよい。

3. 件名調整

文献抄録誌創刊号の副出抄録数を含めた抄録合計の結果から、抄録数の極度に少ない件名標目は統合整理し、集中した項目は分散の配慮をした。

3-1 両件名に分類される場合どちらを先にするかを明示した。

坂垣 慧 (東教育大付小)
初等理科教育 (同学会, 東雲堂)

1. 外国教育

3-2 抄録数が少ないため統合したもの

2. 課外研究にクラブ活動を含める
4. 科学史に伝記を含める
9. 学校に行事・事情・統計を含める
18. 研修に教師を含める
19. 原論に法制を含める
26. 指導法一般に記録, ミニマムエッセンシャルズを含める
29. 心理に発達心理を含める

全体で件名数が62件名であったが、51件名になった。51件名になると、1ページに件名数なるので、取扱いの上でも便利である。

4. 文献抄録誌第2号の発刊計画

4-1 編集計画

1. 第2号の内容は1964, '65, '66 くらいに亘る抄録内容とする。
2. できるだけ最新号に追いつくこと。追いついたら、平行して古いものへも広げて行く。
3. 抄録者へは学会長名で正式文書「抄録協力要請書 (仮称)」を出す。
4. 原稿料 (50円/枚) は本誌永続のために別途予算で出したい。
5. 学会紀要の抄録は執筆者がする。

4-2 抄録作成者および抄録誌分担 (敬称略) (除作成委員)

嶋田 治 (山形大学) 細矢, 斉藤, 早坂
理科の教育 (日本理科教育学会)

高野 恒雄 (茨城大学)
Science Teacher (アメリカ)

高瀬 一男 (茨城大学)
地学教育 (日本地学教育学会)

内田 正男 (千葉大学)
佐久間光一 湊 昭雄 (千葉県理科センター)

Journal of Chemical Education
(アメリカ)

小金井正己 (千葉県理科センター)
AAAS Science (アメリカ)

林 良重 (東京教育大)
化学教育 (日本化学会), 特殊教育研究

坂垣 慧 (東京教育大付小)
初等理科教育 (同学会)

坂井 康宣 (東京学芸大)
科学の実験 (共立出版)

鈴木 正之 (東京学芸大大学院)
現代教育科学 (明治図書)

石井 定男 (東京学芸大付世田谷小)
初等教育資料 (東洋館)
授業研究 (小学館)
教育心理 (")

加藤 武男 (東京学芸大付世田谷中)
中等教育資料 (大日本)

石橋 (東京学芸大大学院)
物理教育学会誌 (同学会)

根本 和成 (東京学芸大付高)
研究紀要 (日本理科教育学会)
生物教育 (日本生物教育学会)

柏木 関吉 (東京学芸大付高)
Physics Teachers
(東京学芸大付高)

Physical Education

平沢 進 (信州大)

Физика в Школе (ソビエト)
Начальная Школа (ソビエト)
Советская Педагогика (ソビエト)
Soviet Education (ソビエト)
Химия в Школе (ソビエト)
Биология в Школе (ソビエト)
Учительская Газета (ソビエト)
Школа и Производства (ソビエト)

河原林泰雄 (名古屋大)

亀井 省三 (名古屋市立大磯小)

後藤 安弘 (愛知淑徳高)

竹内 勝 (名古屋市立田代小)

三井 伸雄 (愛知県立春日井高)

山田克美 (愛知県立千種高)

理科教室 (国土社)

早川 久雄 (神戸大)

Education in Chemistry (イギリス)

井藤 芳喜 (鳥根大)

Science Education (アメリカ)

木村 仁泰 (広島大) 佐々木 洋 (広島大)
戸北 凱惟 (") 進藤 公夫 (")

Der Mathematische und Naturwissenschaftliche Unterricht (西ドイツ)

Praxis der Naturwissenschaften (西ドイツ)

Teil A: Physik-Chemie
Teil B: Biologie

Physik in der Schule (東ドイツ)

Chemie in der Schule (")

Biologie in der Schule (")

Astronomie in der Schule (")

Bulletin de l'Union des Physiciens
(フランス)

Association des professeurs de
Biologie Geologie de l'enseignement
public (フランス)

寺川 智雄 (福岡教育大)

The School Science Review (イギリス)

大庭 景利 (高知大)

放送教育

4-3 作成委員

加藤 貞夫 加藤 十八 戸苺 進

徳井 輝雄 中根 一芳 三橋 一夫

(名古屋大学教育学部付属高)

4-4 印刷予定……形式・紙質など No. 1 に準用
抄録原稿締め切り12月20日, 編集・印刷所渡し1月
10日, 印刷完了 昭和43年3月20日, 印刷部数1200
部 24万円 配布5月末までに。

4-5 抄録執筆者への原稿依頼

理科教育文献抄録原稿作成についてのお願い

秋冷の候ますますご健勝のことと拝察申しあげます。理科教育文献抄録作成について、多大のご支援とご協力をいただき、つねづね感謝申し上げます。既に創刊号は発刊、今秋の総会におきましては予想以上のおおまじをいただきまして、改めて御礼を申しあげます。

つきましては、下記により続刊の計画と、抄録原稿を作成していただくについての諸連絡を申しあげます。ご多用中誠に恐縮でございますが、ご協力下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、ご要望事項がございましたら、同封のはがきで下記宛で一報いただければ幸いに存じます。

記

1. 本抄録誌第2号は、1964, '65, '66 の範囲の発行誌を対象とします。年度は(1月号~12月号)に統一します。同一誌の原稿は年度ごとにまとめるのでご承知下さい。
2. 第2号の刊行予定は昭和43年3月20日としたいため。この原稿締め切りは12月20日とします。したがって、ご作成いただく大体の予定と抄録枚数をご連絡いただければありがたく存じます。ご無理の場合は次号に回わさせていただきますので悪しからずご了承下さい。
3. 誠に恐縮でございますが、抄録作に対する原稿料(50円/枚案)は目下のところ 予算計上が困難です。極力本部に交渉中ですのでお含みいただきたいと存じます。

4. 抄録作成上、本抄録誌 No. 1 がご入用ならば必要部数をご請求下さい。

5. 抄録作成のための手びきもありますから、必要部数をご請求下さい。

6. 抄録用の原稿用紙も必要枚数をご請求下さい。既にお送り申し上げてあります原稿用紙は、そのままお使い下さって結構でございます。

7. 恐縮でございますが、抄録なさるときに、次の点にご注意いただくとありがたく存じます。

ア. 著者のフリガナについてはできるだけご記入いただくようにして下さい。ただし、はっきりしないときはつけなくて下さい。

イ. 題名・著者・巻号・ページ数は、特にご照会いただきたく存じます。また抄録いただきました雑誌は確実に保管いただきたく存じます。後日お問い合わせすることがありますから。

ウ. 先生にご執筆いただく雑誌および同略称は下記のようによろしいか、お知らせ下さい。

エ. 抄録作成をご協力いただける方がございましたら、勤め先と連絡場所をお知らせ下さい。

雑誌名

略号

5. あとがき

目下第2号の編集途中である。今年は更に多くの方々のご協力を結集するもので、将来への希望も明るい。なお本稿では山形大学嶋田治先生のご指導を得たので御礼を申し上げたい。(かとう・さだお)

(本稿は昭和42. 11. 12. 第15回日本図書館学会(於名古屋市教育館)での研究発表に補筆したものである。)

(註)

- (1) 加藤貞夫「理科教育資料分類表の作成 I」理科の教育, 9巻, 3号, '60, P. 47-49.
- (2) 加藤貞夫「同上 II」日本理科教育学会(以下学会)東海支部研究集録, 8号, '60, P. 26-33.
- (3) 加藤貞夫「同上 III」理科の教育, 11巻, 1号, '61, P. 535-538.
- (4) 加藤貞夫「同上 IV」中部図書館学会誌, 3巻, 2号, '61, P. 11-25
- (5) ●愛知県図書館協会報35号(昭和36. 2. 24)
●中等教育資料No. 152(昭和38年8月号)
●学校図書館No. 152(昭和38年6月号)
- (6) 加藤貞夫「理科教育資料分類表の作成とそれにもとづく文献整理 V」名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要(以下紀要)第9集, '63, P. 111-113.
- (7) 加藤貞夫「同上 VI」紀要, 第10集, '64, P. 115-117
- (8) 加藤貞夫「理科教育文献抄録誌の作成 I」紀要, 第11集, '65, P. 156-167.
- (9) 学会編「理科教育書誌1963年」(案), '64, P. 74.
- (10) 加藤貞夫「理科教育文献抄録誌の作成 II」紀要, 第12集, '66, P. 223-227.
- (11) 学会編「理科教育文献抄録誌 No. 1, 1966」'67, 86p